

課題名	114 キウイフルーツの施設栽培	分類	②
	2) 雨よけ施設の大きさと花腐れ細菌病防除効果		
試験研究年次	63～1年(完了)		
<p>1 目的</p> <p>雨よけ施設の大きさの違いと花腐れ細菌病防除効果の関係を明らかにして生産安定技術確立の資とする。</p>			
<p>II 試験方法</p> <p>1 試験場所 現地(八女郡立花町)</p> <p>2 供試樹 ハイワード5年生</p> <p>3 試験区</p> <p>(1) 大型トンネル</p> <p>(2) 小型トンネル</p> <p>(3) 対照(露地)</p> <p>4 処理方法</p> <p>大型トンネルは、Tバー仕立て樹を間口3mのビニルトンネルで覆ったもので、3月下旬から8月上旬までビニル被覆を行い、小型トンネルは、平棚栽培一文字整枝樹を間口1.2mの連棟のビニルトンネルで3月下旬から6月下旬まで被覆した。</p>			
<p>III 主要成果の概要</p> <p>1 花腐れ細菌病はトンネル被覆をすることにより露地よりも明らかに被害花率が低くなった。</p> <p>2 大型トンネル区のトンネル両側部は枝が下垂しているため雨がかかりやすく、花腐れ細菌病の防除効果は認められなかった。</p> <p>3 大型トンネル区中央部と小型トンネル区では花腐れ細菌病の被害花率に差は認められなかった。</p> <p>以上の結果、Tバー仕立ての大型トンネルは、両側部の結果枝に雨がかりやすく花腐れ細菌病防除効果が小さい。平棚小型トンネルは被覆率が高く防除効果が大きいので、構造のいかんを問わず被覆率を高めれば花腐れ細菌病を防除できる。</p>			

#### IV 主要成果の具体的データ

第1表 花腐れ細菌病の発病程度 (63年)

	調査花数	被害花数	被害花率
大型トンネル			%
(トンネル中央部)	300	4	1.3
(トンネル両側部)	300	36	12.0
対照(露地)	300	39	13.0
小型トンネル	179	3	1.7
対照(露地)	221	17	7.7

#### V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 花腐れ細菌病防除効果が期待される雨よけ施設構造の資料となる。
- 2 開花前の被覆内温度の上昇は結実を阻害するので換気が容易な構造とする。
- 3 生育が早まると晩霜害を受けやすいのでビニル被覆が早すぎないように注意する。
- 4 大型トンネルではビニル被覆後の土壌乾燥を生じ易いので灌水を行う。
- 5 トンネル両側部に着蕾するような整枝（Tバー仕立てなど）は花腐れ細菌病の防除効果が小さい。

#### VI 今後の研究上の問題点

雨よけ施設に適した整枝方法の開発

#### VII 資料名

昭和63年、平成元年度福岡県農業総合試験場果樹関係試験成績書